

第2章 研究の内容 1. 3A児事例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-01-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00064693

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



第2章 研究の内容

1. 3A児事例

八日市屋 真唯

抽出児について：3A児（男児）

・1学期の様子

探究心について：泥だんごをつくる際に「大きくしたい」という思いから、どうしたら大きくなるかを試行錯誤したり、「固くしたい」という思いから、どのようにしたら固くなるかを試行錯誤したりして遊んでいた。

自己主張について：「それ僕のだよ」と言葉で伝えることもあるが、自分の思いを言葉で表現するよりも表情や行動で表出する姿がよく見られた。

自己抑制について：友達との関わりの中では口数が多い方ではなく、周りの様子をよく見ている。話をしたいと思っているが、友達の話が終わるまで静かに待ち、友達の話が終わると自分の話を始める姿が見られる。

・抽出児とした理由

自分のしたい遊びを見つけて遊ぶ姿が見られたり、「いいこと考えた」と方法を考えたり興味をもったことに対して夢中になったりする姿が見られている。また、教師や友達との関わりも増えてきていることから、相手との関わりの中で探究心・自己主張・自己抑制が見られるのではないかと思い、抽出児とした。

事例1-1 3A児 9月24日 「次は水を少なくしてみるね」

探究心：物事の仕組みや性質，原因を知ったり確かめたりしようとする事

幼児の姿

以前、教師がアサガオで色水を作ったことを思い出した3A児は、「前みたいにアサガオで色水を作りたいんだけど」と教師に話し、教師と一緒に色水作りをすることとなった。

3A児は、牛乳パックに水とアサガオを入れて手でつぶしながら色を出していった。水がどんどん紫色に変化していく様子に、3A児は「ねえ、紫色になったよ」と嬉しそうに教師に話した。教師も別の牛乳パックで色水をつくると、3A児とは違う、ピンク色の色水が出来上がった。

(教師の援助)
色がよく見えるのではないかと思い、牛乳パックを提案し、用意した。

(補足)
3A児が選んだ花のつぼみは濃い紫色で、教師が選んだ花のつぼみは濃いピンク色であった。

3A児 「あ、先生はピンクやね」
 教師 「3A児君と色が違うね」
 3A児 「なんで？」
 教師 「なんでだろう？」
 ①3A児 「あ！分かった水少ないからじゃない？」
 教師 「なるほどね、本当や、先生の方が水少ない」
 3A児 「ちょっともう一回作ってみる」
 3A児は、牛乳パックを取りに行き、もう1度色水を作り始めた。②「次は、水少なくしてみるね」と3A児は言い、さっきよりも少ない量の水で色水を作った。「あれ？なんかピンクやけど、先生と違うピンクやね、なんか、もっと薄いね」と話した。
 3A児は、その後出来上がった色水を並べ、③「このまま置いておいたらどうなるかな」と教師に話し、次の日まで色水を置いておくことにした。

探究心
 ① 色が違うことに対して疑問をもち、原因を推測する
 推測

探究心
 ② 推測したことを試してみる
 試行

(補足)
 3A児が選んだ花のつぼみは教師よりも薄いピンク色だったため、ほんのりピンクがかった色水になった。

探究心
 ③ 分からないことをどうなるか試してみたい
 試行

事例1-2 3A児 10月1日 「ねえ、ここにこれ入れたらどうなるかな」

探究心: 物事の仕組みや性質、原因を知ったり確かめたりしようとする

幼児の姿
 先日、朝顔で作った色水を思い出した3A児は、牛乳パックに入っている色水を見て「なんか、薄くなった？」と教師に話す。教師は、3A児の思いに共感し「そうかもね」と返事をした。3A児は「もう一回色水作りたいたけど」と、教師に話し、3A児と教師は、新たに色水を作ることにした。
 教師は、透明の傘袋を用意し、傘袋に水と朝顔を入れて色水を作り始めた。それを見た3A児も、「袋ちょうだい」と言って、教師の真似をして透明な傘袋で色水を作り始めた。その様子を見ていた、3B児が「3B児もやりたい」と言って、一緒に色水を作ることとなった。3つの色水が完成し、色の違いに気付いたり、太陽にかざして

(補足)
 教師の目には、色水が変わった様子が見られなかった。教師の気持ちは、半信半疑であったが、色水が変化するのではないかと楽しみにしていた3A児の気持ちや、3A児は、ほんの少しの変化にも気付いているのではないかと感じたため「そうかもね」と返事をした。

(教師の援助)
 天気が良い日であったことから、透明の傘袋を用いることで、色水が地面に映って見えたり、光にかざすときれいに見えたりすることが予想された。そこで、牛乳パック以外の素材を知ったり、興味が広がり色水で遊ぶ楽しさを味わったりしてほしいと願い教師自身がモデルとなり透明の傘袋を使って色水遊びを始めた。

色水を見たりして楽しんでいた。

しばらくすると、3A児は側に落ちていた木の表皮に気付きそれを持って教師に見せる。

①3A児 「ねえ、ここにこれ入れたらどうか
な」

3B児 「入れてみよう」

教師 「どうなるかね、やってみよう」

②3A児は、木の表皮を色水に入れて振ったり、もんだりした。

3B児 「見せて」

3A児 「何にもならないね」

③3B児 「じゃ、これは？(枯れ葉を見せる)」

3A児 「あ、それ入れてみよう」

3B児は、3A児の持っている色水に枯れ葉を入れた。3A児は、木の表皮の時と同様に振ったり揉んだりを繰り返す。

④3A児 「あ！見て、茶色くなってきた」

3B児 「本当や、すごいね」

3A児 「茶色くなったね」

⑤3B児 「3B児、次これ入れたらいいと思う
(クローバーを見せる)」

3A児 「ちょっと入れてみて」

3B児は、3A児の持っている色水にクローバーを入れた。3A児は、これまでと同様に振ったりもんだりを繰り返す。

3A児 「なんか茶色だね」

3B児 「本当や」

3A児 「なんかどンドン茶色になってる気がする」

教師 「本当だ、さっきより茶色くなったね」

その後も、3B児は枯れ葉や、葉っぱなどを持って来て、3A児に入れてみることを提案し試してみることが繰り返された。最終的に、砂を入れてみることとなり、砂を入れた色水は、泥水になってしまった。その様子を見た3A児は、「あらら、どろどろになっちゃった」と話し、3B児は、「またやってみればいいよね」と話して遊びの時間が終わった。

探究心

① 木の表皮を色水に入れることで何か変わるのではないかという興味がわき、色水に入れてみたいと思う 興味

探究心

② 朝顔で作った色水と同様に、木の表皮を入れてもんだり、振ったりする。時々、止まって変化をみながらも、振ったりもんだりを繰り返す 試行

探究心

③ 木の表皮は変化がなかったが、枯れ葉を色水に入れることで何か変化があるかもしれないと思い、枯れ葉を色水に入れて試してみた 興味

探究心

④ 振ったりもんだりを繰り返し、色の変化に気が付いた。色が変わったことで、関心が高まり、何度も繰り返して遊ぶ姿に繋がっていると思われる 気付き

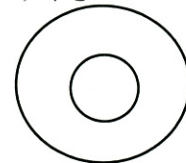
探究心

⑤ 枯れ葉で色が変わったことから、もっとやってみたい、次はどうなるのか見てみたいという思いが高まっていった。 興味
期待

(補足)

<園庭>

けやきステージ



●教師

3A児○ ○3B児

事例1-3 3A児 3月10日

「先生見て。こうしたら倒れないし、積み木ものせられるでしょ」

探究心:物事の仕組みや性質,原因を知ったり確かめたりしようとする事

幼児の姿

円柱の積み木を集めて、上へ上へと積んで遊んでいた3A児。そこへ、「まぜて」と言って3C児がやってきた。

3C児 「何するの？」

3A児 「いま、これ（円柱）を載せて高くしてるの」

3C児 「あ、そうか。じゃ、これをのせていこう」

2人は高くしたいという同じ目的をもちながら積み木を積んでいった。しかし、3A児の腰のあたりで崩れてしまった。

3A児 「あ、くずれちゃったね」

3C児 「もう1回やろう」

3A児 「うん、そうしよう」

2人は、再び、積み木を積み始めた。ちょうどさっき倒れたあたりで、3A児は教師に声を掛けた。①

「先生見て、押さえたら倒れないかも」と、両手を使って積み木を押さえながら言った。教師は、「そうだね、押さえたら倒れないかもね」と答えた。しかし、②3A児はすぐに「あー、でも押さえたら積み木取れないわ」と両手がふさがり、積むことができないことに気が付いた。

3A児が押さええている間も、3C児は、積み木を積んでいたが、再び崩れてしまった。

どうにかして高く積み上げたい3A児が次に考えたのは、③四角形の積み木の真ん中に穴が開いている積み木でおさえるということだった。

「先生見て。こうしたら倒れないし、積み木も載せられるでしょ」と、3A児は教師に話した。

四角い積み木は数も少なく、高く積んだ積み木にとどかなかつた。しかし、その後も2人は、満足そうに積み木を積んでいった。



探究心

- ① 積み木を倒れないようにするには、どうしたら良いか考え実践する

試行

探究心

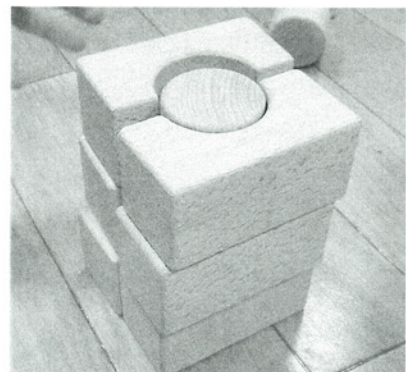
- ② 思いついたアイデアを試したことで気付く

気づき

探究心

- ④ 気づきを踏まえたうえで、どうしたら高く積むことができるか考え実行する

試行



事例1-4 3A児 10月22日 「ちょっと待つて」

自己主張:相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

3A児と3B児は、砂場で教師と一緒に山をつくることになった。

3A児 「ここに穴をあけて、こっちにも(反対側)穴をあけてトンネルつくる」

教師 「じゃ、先生こっちから穴開けるね」

3A児 「うん、そうして」

山に穴をあけてトンネルが出来上がった。その間も、3B児は、砂を積み上げていき、山を高くしていく。

3A児 「通った、通った、つぎは、ここを道にするの」

教師 「うん、いいね。先生は、次、3B児君の手伝いするね」

3A児 「うん、いいよ」

トンネルが出来上がり、3A児は、トンネルから続く道を作り始めた。その間、3B児と教師は、砂を山に積み、山を高くしていった。

3B児の運んでいる砂が3A児の作っている道に何度も掛かっていた。①砂が掛かると「ああ」と、3A児は、声を出す。3B児には聞こえていない。3B児の様子を見ていると、砂を運ぶたびに、スコップからこぼれる砂が、3A児のつくった道に掛かっていた。通るたびにかかるので、②3A児はさっきよりも大きな声で「ねえ、ちょっとまって」と3B児に声を掛けた。

(補足)
山はある程度大きくなったので、3A児の思いを受け止め、一緒にトンネル作りを手伝うことにした。

(補足)
作り始めてから、黙々と砂を積み上げていく姿から、山をもっと高くしたいという3B児の思いが伝わってきたため、再び3B児の山作りを手伝った。

自己主張
① 作った道に砂がかかり、道がふさがってしまい、砂が掛かって嫌だ
困惑

自己主張
② 作った道に砂がかかり、道がふさがってしまい、思い通りにいかない。砂が掛かって嫌だ。やめてほしい
意思表示
気付いてほしい

3B児は「なに？」と3A児の顔を見るが、3A児は、砂がかかったことを直接、3B児には言い出せず、③教師の顔を見て苦笑いしながら「砂かかっているんだけど」と言った。教師は、3A児の思いを代弁し、3B児に伝えると、3B児も3A児が困っていることを理解した。3B児に思いが伝わったことで、3A児も安心して遊びを再開し、自分のしたい遊びを続けていた。

自己主張

③ 3B児には、直接伝えられなかったが安心して思いを伝えることができる教師に対して言葉で思いを伝えた 意思表示

(教師の援助)

3A児の思いや状況を代弁することで、思いに気付くことができるように、3B児に3A児の思いを伝える。

事例1-5 3A児 1月18日 「ぼく、コマじゃなくて、いないこだれだしたいんだけど」

自己主張:相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

先週末に、3D児と3A児と教師の3人で一緒にお正月遊びを楽しんだことから、登園した3A児は、①「先生、今日も一緒に遊ぼう」と教師を誘った。横にいた3D児と教師3人で一緒に今日は、何をして遊ぶか話をした。

教師 「今日は何する？」

3D児 「今日は、えーっとね、コマにしようかな」

教師 「いいね、じゃ先生もコマで遊ぼう」

②3A児 「ぼく、コマじゃなくて、いないこだれだしたいんだけど」

教師 「そうか、3A児君はいないこだれだしたいんだね」

3D児 「えー、コマがいい」

3A児 「・・・」

教師 「遊ぶ時間まだたっぷりあるから、どっちもしようよ」

3A児 「あ、ならそうしよう」

その後、3D児と3A児は、身支度を終え、教師と一緒にコマやゲームを楽しんだ。

自己主張

① 教師と一緒に遊びたいという思いから教師に声を掛ける 誘う

自己主張

② 「いないこだれだのゲームがしたい」という強い思いを教師や3D児に伝える 意思表示

(補足)

思いを強く主張する3D児に何も言えず、戸惑いの表情が見られる。

事例1-6 3A児 2月16日 「ねえ、誰か手伝って」

自己主張:相手に対して自分の気持ちを説明したり表現したりすること

幼児の姿

年上児が大型構成遊具を使って遊んでいる姿に憧れていた、3A児を含む数名の3歳児が、うさぎ組テラスで大型構成遊具を使って家を作ることとなった。

3歳児にとって大型構成遊具は、体に対して大きいため、2人で運ぶ幼児がほとんどであったが、3A児は、1人でテラスまで運んできた。

その頃、家の屋根の部分を組み立てるところに取り掛かっていたため、3A児は、何とか自分の力で大型構成遊具を頭のところまで持ち上げた。しかし、3A児1人の力では、大型構成遊具をはめ込むことができなかつた。その様子を教師は側で見守った。

①3A児は、周りにいた友達に大きな声で「ねえ、誰か手伝って」と呼びかけた。その呼びかけに気が付いた友達が、3A児の持っていた大型構成遊具と一緒に持ち上げ、屋根の部分にはめ込んだ。

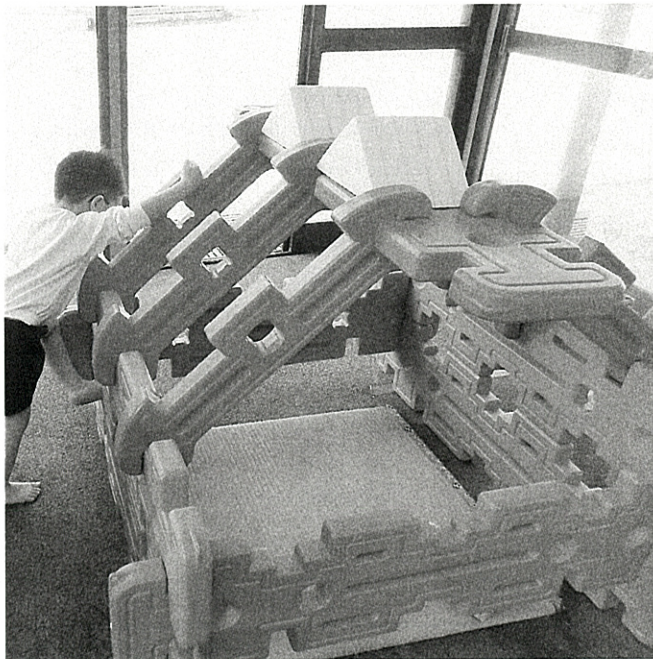
(教師の援助)

安全に遊ぶことができるように、その都度大型構成遊具の持ち方や扱い方は指導したが、一人一人が試行錯誤しながら大型構成遊具と関わってほしいと願い、2人で持たなければならない等の制限した指導は行わなかつた。

自己主張

① 一人で挑戦してみたが、自分の力では限界を感じ、友達に助けを求める

要求 意思表示



事例1-7 3A児 11月20日 「それいいね、そうしよう」

自己抑制：自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

5歳児から譲ってもらったお化け屋敷セットを使ってお化け屋敷を楽しむ日が続いていた。この日も、3A児と3B児は、お化け屋敷をするため、セットを立てて準備を始めた。段ボールでつくったお化け屋敷セットの壁には、丸い穴が開いている。その穴から、手を入れて中に入っている人を脅かす仕組みになっていた。3B児は、その穴と同じ丸い形の段ボールを持ってきて、穴を塞ごうとしていた。

3B児 「これちょっと怖いからなくしたいんだ」

3A児 「えっ、なんで？怖くないし」

3B児 「だって、こわいじゃん」

3A児 「こわくないよ。面白いよ」

3B児 「嫌だ、怖いもん」

主張を続ける3B児の横で、3A児は、穴に手を入れて穴が塞がれないように抵抗していた。その姿を見て、3B児は、丸い形の段ボールで3A児の手をどかすしぐさ何度も繰り返した。

教師 「3B児君は、これをここに貼りたいの？」

3B児 「そう、これ穴空いてたら怖いから、僕ここ隠したいんだ」

教師 「そうなんだね、怖かったのね」

3B児 「うん」

教師 「3B児君ここ閉めたいんだって、どうする？」

3A児 「えー、うーん」

3B児 「隠したいの」

3A児の手は、穴に入ったまま抜こうとはしなかった。

教師 「そうか、じゃ、丸の上の方だけテープで止めて、閉じたり、開けたりできるようにするのはどう？」

①3A児 「それいいね、そうしよう」

3B児 「そうしたら、閉まるからそうする」

2人は、教師の提案に納得し、笑顔になった。さっそくテープを取りに行き、教師と3人で丸い形の段ボールを貼った。

(教師の援助)

側で見ていた教師は、これ以上話が進まないと思い、状況や2人の思いを整理することにした。

(教師の援助)

互いに引く様子がなく、これでは、遊びが進まなくなってしまうと思い、教師から、1つの方法を提案した。

自己抑制

- ① 穴を塞ぎたくない思いはあるが、完全に塞がなくてもいい方法を知ること、その方法を受け入れる

受け入れ

事例1-8 3A児 2月4日 「じゃ、ここに入れてこうしてみる」

自己抑制：自分の気持ちを抑えて行動すること

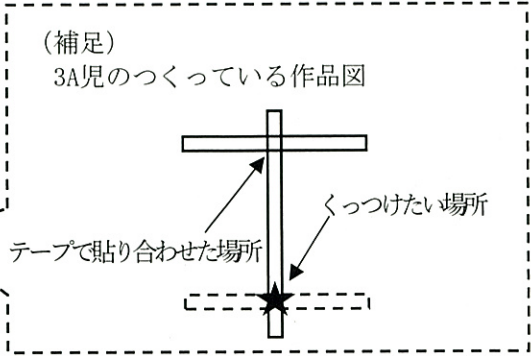
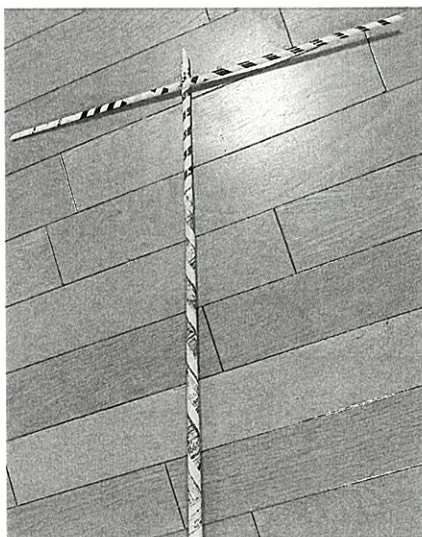
幼児の姿

3A児は、くるくる回せるものを作りたいという目的を教師に伝え、チラシでくるくる棒を教師に2本作ってもらった。

作ってもらった2本のくるくる棒を十字に貼り合わせて、自分の思うように製作を始める。そして3A児は、自分でもくるくる棒を1本完成させて貼り付けたい位置にあててみるが、首をかしげて納得がいかない様子であった。自分で作ったくるくる棒を見つめながらしばらく考えた3A児は、側にいた教師に「先生、ここにくっつけたいんだけど、ここがふややなんだよね」と話した。

3A児が作ったくるくる棒は、教師が作った物と比べると少し太く柔らかかったが、それほど差は見られず、よくできていると思った教師は、「そう？先生は、いいと思うけど」と返答した。すると、3A児は、①作品を見つめながら少し考えて「じゃ、ここに入れてこうしてみる」と、自分で作ったくるくる棒を、教師の作った棒にさして縦につなが合わせた。テープで貼り合わせ、出来上がった作品を見た3A児の表情は、とても笑顔で満足した表情だった。

<出来上がった作品>

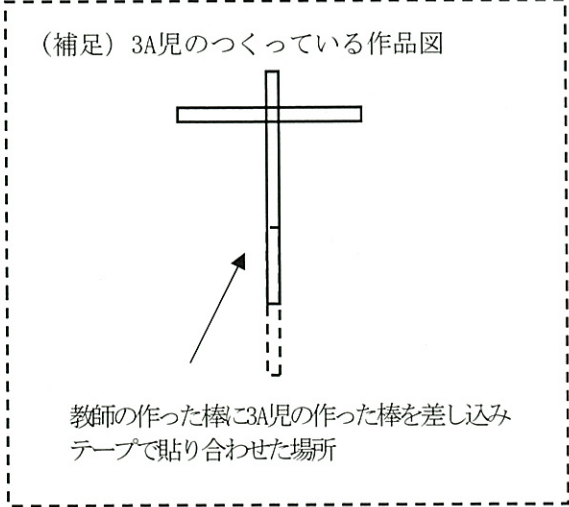


(教師の援助)
3A児が自分で作ることができたくるくる棒なので、ここまで作り上げた作品を認めてあげることで、自信や意欲につなげたいと思いながら3A児の声掛けに返答した。

自己抑制

① 自分の思い通りの物ができなかったことを受け止めてもらうことで、自分がしようとしていた考えや、やり方を変える

気持ちの転換	受け入れ
妥協	自信



事例 1-9 3A児 3月2日 「じゃ、3C児君の次僕ね」

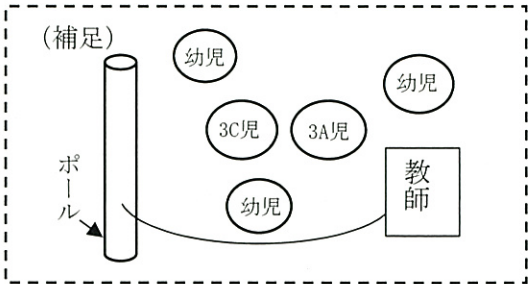
自己抑制：自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

3A児は、教師と一緒にテラスで大縄跳びをして遊んでいた。そこへ、3C児や3E児が「やりたい」と言って遊びに入ってきた。3A児は、「今、8の字跳びしてるの。見てて」と言って、得意気に2人に8の字跳びをして見せた。3C児は、「次、僕がやる」と言って、3A児が見せた8の字跳びに挑戦したがうまくいかない。「僕もやる」と、次は3E児が跳ぶ。「僕、回さないで。下にして跳ぶから。」と、それぞれに自分がどのようにして跳ぶかを教師に伝えながら遊んだ。3E児が跳び終わると3A児が跳ぶ番になり、自然と順列ができた。

そこへ、3F児や3G児も大縄に興味を示し、列に並んだ。しばらく遊んでいると、次第に順番が分からなくなった。

3F児が跳んでいる横で、3A児と3C児は隣同士に並んでいた。3A児は、①「え、次誰？」と周りに問いかけた。「え、私じゃない。今、したし」と3G児が答えた。①3A児は、遠慮がちに「じゃ、僕かなあ」と言った。その後すぐに3C児が「順番、次僕だよ」と、訴えた。②3A児は少し考えて、「じゃ、3C児君の次僕ね」と言って、3A児は、3C児の後ろに並んだ。その後すぐに、3A児は、3C児とにこやかに話しながら順番を待った。



(補足)
3A児は、縄跳びが得意で、様々な跳び方ができる。

(補足)
途中、複数人で縄を跳ぶことを楽しむ姿が見られたため、順番が分からなくなった。

自己抑制

① 友達との関係性の中で、問いかけることで周りの反応を確かめる。また、縄跳びがしたい気持ちを主張しても良いかと葛藤し、様子をうかがいながら主張する

葛藤 主張

自己抑制

② 3A児にとって身近な友達である3C児と、「跳びたい」という同じ主張に悩んだ末に、3C児の言い分を受け入れる

切り替え 受け入れ

考察 -3A児の1年を振り返って-

1. 「探究心」「自己主張」「自己抑制」の発達の様相について

(1) 「探求心」について

事例1-1は、自分の色水と教師の色水の違いに気付き、どうして違うものができるのかと推測し色水を作ることを繰り返しながら疑問を探った。事例1-2では、色水遊びの中でいろいろな素材を使って遊ぶことに興味をもち、何度も繰り返し楽しむ姿が見られた。興味をもったものがどう変化していくのか期待したり、新たなことに気付いたりしたことで、さらなる興味の広がりが見られた。それは、3A児にとって、色水遊びは「なんでだろう」「どうなるかな」という不思議さが感じられ、思ってもみないことが起こる楽しさやおもしろさを見出しながら繰り返し楽しんだことが要因として考えられる。

事例1-3では、積み木を高く積みたいという目的をもって、試行や気付きを繰り返し、どうしたら、自分の思うように積み木を高くすることができるだろうかと試行錯誤しながら遊んだ。それは、事例1-1、1-2のように、遊びを繰り返しながら、変化する楽しさを十分に味わったことで、目的が明確な探求へ繋がっていったと考える。

(2) 「自己主張」について

事例1-4、1-5は、嫌な気持ちや困っていることを相手に伝えたいが、自分では言えず、教師に表現し、意思表示する姿が見られた。

事例1-6では、周りの友達に自ら助けを求める姿が見られた。

教師に自分の思いを伝える姿から、自ら友達に思いを伝える姿が見られるようになった。それは、安心して教師に自分の思いを伝えられる、教師との関係性であったことが要因としてあげられる。

(3) 「自己抑制」について

事例1-7は、穴を開けておきたいという思いを抑えて、教師の提案する折衷案を受け入れた。事例1-8では、自分のイメージした通りの物ができなかったが、新しい方法で作ることができた。事例1-9は、自分の順番だという思いを抑えて、友達の思いを受け入れた。はじめは、自分の力で思いを変えることは難しかったが、前向きに考えられるように変わっていった。それは、考えを変えても自分にとって良い結果となった体験を積み重ねたことで、自分の思いを変えていけるようになったと考えられる。

2. 環境の構成と教師の援助について

「探究心」の発達において、色水遊びを取り入れたことが素材の持つ不思議さや変化の面白さに興味をもつきっかけとなった。さらに、色の変化に気付きやすい環境を構成したことも不思議さに興味をもつことに繋がっていると考えられる。事例1-1では、中身が白い牛乳パックを用意したことで、色の違いに気付くことができた。事例1-2では、透明な袋を用意することで色水遊びの面白さや興味の広がりが見られるのではないかと思い、透明な袋を用意したことで、物を介して友達と、やり取りする姿に繋がっていった。また、事例1-1、1-2では、予測していないことを繰り返し試し、変化を楽しむ時間や物的環境が保証されていたことがおもしろさを感じる姿に繋がった。事例1-3では、様々な選択肢の中で、自分のやりたいことを試せる環境であったことが、目的をもって試行錯誤する姿に繋がっていった。

「自己主張」の発達において、教師が3A児の思いを受け止めていったことで安心して自分の思いを出すことに繋がった。また、教師や友達と一緒に遊ぶ中で、伝えたい思いを代弁したり、一緒に話し合う機会をもったりするなど、3A児の姿に合わせて様々な援助をしたことも自ら思いを伝える姿が見られるようになった要因と考えられる。

「自己抑制」の発達において、3A児の思いを受け止めたり、思いを実現できる解決方法を提案したりすることが自分の思いを変えていくことに繋がった。事例1-7では、互いに譲れない思いがあったが、穴を開けておきたいという思いと、穴を塞ぎたいという思いの両方をかなえられる案を教師が提案したことで、3A児の思いをかなえる結果に繋がった。事例1-8では、思いを受け止めることで、活動を継続していくことに繋がった。事例1-9では、これまでの体験をふまえ、自ら考えを変えて相手の思いを受け止める姿が見られた。自分を抑えがちな3A児であるが、教師が代弁することで、思いを出しても良いんだという経験や成功体験を積み重ねていくことで前向きになれたと考えられる。